



送迎バス内の後部に付けた確認ボタン



幼稚園や保育所の送迎バスに子どもが置き去りにならないよう義務化された安全装置の取り付けについて、県内は国が目標とする6月末までの完了が難しい状況になっている。県の調べでは、90施設のうち162台のうち20台が間に合わない見通しという。注文の集中により機器の入荷や業者の手配にめどが立っていない。現場は目視での確認を増やすなどソフト対策に力を注いでいる。

送迎バス置き去り防止装置

月内の設置20台困難

幼稚園や保育所 目視確認など強化



安全装置の付いた送迎バスで登園する「すがおこども園」の園児＝5月下旬、豊後大野市三重町市場

装置は人が車内をチェックした後に確認ボタンを押す方式と、センサーで自動感知する方式がある。昨年9月に静岡県で起きた3歳女児の置き去り死事件を受け、国が今年4月から設置を義務化した。

1年間の経過措置期間を設けたものの、熱中症リスクが高まる夏場を前に済ませる目標を掲げている。豊後大野市三重町管生の認定こども園「すがおこども園」は3月、2台のバスに取り付けた。エンジン停止後にチェックを促す音声か流れ、車内後部の確認ボタンを5分以内に押さなければ警報音が鳴る。園児が押すSOSボタンもある。佐藤恵美子副園長(61)は

「子どもを守る手だてが一つ増えた。機械頼みにならないよう気を引き締めた」と語る。

一方、作業の遅れも出ている。県が今年5日までに集計したところ、11施設が「6月末までは難しい」と回答した。各市町村などによると、施設から「業者が忙しく設置日の調整がつかない」「業者が見つからない」との声が上がっている。4月に発注をした大分市内の認定こども園も設置日が決まっていない。人気機種で品薄という、60代の男性管理職は「思ったより時間がかかっている」と頭を悩ませる。

チェック態勢を強化しており、バス内は運転手と保育士2人で確認する。園に駐車している時は扉を開け放しておくことにした。県私立幼稚園連合会の土居孝信会長(62)は「これから暑い時季になる。設置がまだの場合は確認を増やすなどして対応する。人命を預かるので細心の注意を払いたい」と話した。(吉田美佳)

送迎バスの安全装置義務化は、県内の特別支援学校の33台と障害児通所施設(93施設)の174台も対象になっている。いずれも3列シート以上のバスやワゴン車。1台1万5千円を上限に国が設置費用を全額補助する。

大分合同新聞 2023年6月9日(金) 朝刊 21面

〔問①〕安全装置が取り付けが義務化されるきっかけとなった出来事は何か。

〔問②〕装置以外で、置き去り防止へ向けて人が担う対策にはどのようなものがあるか？

〔問③〕装置の設置作業の現状はどうなっていますか？